

令和3年度 瀬谷養護学校不祥事ゼロプログラム年間検証について

①②③は全所属 ④⑤は全県立学校の必須課題

取組み課題	目標	実施結果と目標達成状況
○不祥事ゼロの徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員との個別面談を通じて注意喚起を行い、不祥事を未然に防止する。 ・啓発点検資料を当事者意識の醸成につなげる。 	<p>当事者意識・当事者感覚をキーワードに事故防止会議・不祥事防止研修、個人面談および自己点検を実施した。啓発資料で求めた意見を共有した。一人一人が不祥事ゼロを目指し、当事者意識を持ち続けることは今後も必要である。</p>
①法令遵守意識の向上（法令の遵守、服務 規律の徹底）	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間の内外を問わず 社会人・公務員として自覚を持ち、法令を遵守し、公正に職務を遂行する。 	<p>朝打合せや職員会議、掲示等で綱紀保持等の通知を周知し注意喚起を行った。神奈川県公立学校教職員の倫理に関する指針を配付し携帯することで意識向上を図った。</p>
②職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ等）の防止	<p>職員間あるいは日常生活において、他者の人格を尊重し、品位ある言動・行動を心がける。</p>	<p>小学部職員による研修を実施した。様々なハラスメントについて説明し、他者について想像力を持ち、人格を尊重することの重要性を改めて意識することができた。</p>
③児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ 行為の防止	<p>「教職員によるわいせつ事案の根絶に向けた提言」を共通理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の意思や尊厳を守り年齢や性別にふさわしい対応・指導を行う。 	<p>7月に職場討議を実施し、討議の共有を図った。わいせつ事案防止セミナーは学部代表が受講し資料は全校に回覧した。DVD視聴と討議は学部学年を混在させるグループで行い、同僚性を高めつつ不適切指導の防止について意見交換し理解を深めた。GLによる不適切指導を考える研修では3密（密閉・密接・過密）を回避して適切な距離感を保つことについて共通理解することができた。</p>
④体罰、不適切な指導の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の人権を尊重し、障害や行動特性に応じた適切な指導を行う。 	<p>公開講座「行動障害理解と対応法」では適切な行動支援について研修した。人権教育研修は外国に繋がりのある児童生徒や保護者への理解と支援をテーマとした。研修を通じ、児童生徒をより多角的に理解し自らの指導支援を振り返ることができた。中学部職員による体罰不適切指導を</p>

		テーマにした研修はQ&A方式でリアリティのある回答を通じ各自が自分事としてとらえることができた。
⑤入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	<ul style="list-style-type: none"> ・個別教育計画、進路、実習関係書類作成時の管理と処理を適切に行う。 	個別教育計画作成時の高等部のチェックリストについて情報共有した。サーバー、机上などあらゆる場所の整理整頓は事故防止の基本であり、全体での意識向上が必要である。
⑥個人情報の管理、取り扱い、情報セキュリティ対策（パスワードの設定、誤廃棄防止）	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報について理解を深め、個人情報の保護かつ安全な運用を目指す。 	情報研修は全体、初任者、転任者など対象によりの確に行われた。メールの誤送信の事例と対策をポータルサイトで情報提供し、メール、ファクス送信のダブルチェックの習慣が浸透した。
⑦交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故の発生を未然に防止する。 	管理職により飲酒運転について講話を行った。また、交通事故事例を情報提供し、常に緊張感をもって交通法規を遵守することと、事故予防のために必要な余裕ある行動について再度の注意喚起を行った。
⑧業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）	<ul style="list-style-type: none"> ・報告連絡相談の重要性を理解し実行する。 ・各自がスケジュール管理に努める。 ・整理整頓により適切な業務環境を整える ・各自が学校全体を考え主体的に業務や会議の効率化を図る。 	分教室職員による研修ではTeamsのさらなる活用が提案され今後の業務の効率化において必須事項であると意識できた。 感染症対策による教育活動の計画変更や増加した衛生管理業務などの過重負担を減じ、業務分担の整理や協力体制の構築に継続して取り組む。
⑨財務事務等の適正執行	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な会計処理を実行する。 ・適切な物品管理 	私費チームにより、適正な会計処理手順や監査等のスケジュールが示され円滑に事務処理が進んだ。
○適切な休暇取得とサービス全体の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な休暇取得により、心身の健康を保ち、ミスが減らし事故を未然に防止する。 	閉庁日を設定し計画的な休暇取得を周知徹底した。課題は時間外勤務を減じ、休暇を取得しやすい環境づくりを進めることである。

○令和3年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和4年度に取り組むべき課題について（校長意見）
年間計画通り実施し、目標を達成することができた。職場討議およびDVD研修後の討議を通じ、所属学部や経験年数の違う教員間で意見交換を行い、わいせつ・セクハラ事案の防止についての深く考える研修となった。職員が講師となり行う研修も継続することができた。今後も、人権意識を高め「当事者意識」「当事者感覚」をキーワードとしセクハラ・体罰防止を徹底すること、あらゆる不祥事防止について職員全体が未然防止に努める意識をより高めていくことが課題である。